

開講科目名 / Course	カウンセリング論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期 / Second	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	秋本 慶子	
担当教員名 / Instructor	秋本 慶子	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	<p>カウンセリングの基礎となる理論とカウンセリングスキルを学び、看護や保健室など、実際の場面で適切なコミュニケーションができる基礎を作ることを目的とする。前半では、具体的なカウンセリング・スキルを学ぶ。中盤のカウンセリング理論では、カウンセリングの主要な考え方と技法について理解する。後半は基本姿勢を学び、最終回では、患者や児童生徒、医療者や教職員自身の心を守る方法を知る。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. カウンセリングの主要な理論と基礎技法の名称や意味を正確に説明できる。</li> <li>2. 講義で示されたキーワードを用いながら、学んだ内容の要点と対人援助におけるその意義を、自身の言葉で論理的に要約できる。</li> <li>3. 講義を通じて、自身のコミュニケーションの傾向や心理的反応を客観的に捉え、気づきや感想を記述することができる。</li> <li>4. カウンセリングが看護や保健室などの場面、自分自身のメンタルヘルスにどのように役立つのか説明できる。</li> </ol>	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、3.看護の基盤となる専門知識・技能	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>01. カウンセリングの考え方：聴くことの意味</li> <li>02. カウンセリング・スキル（1）：あいづち、繰り返し、質問</li> <li>03. カウンセリング・スキル（2）：要約、言い換え</li> <li>04. カウンセリング理論（1）：来談者中心療法</li> <li>05. カウンセリング理論（2）：認知行動療法</li> <li>06. カウンセリングの基本姿勢（1）：丁寧に聴く</li> <li>07. カウンセリングの基本姿勢（2）：共感的に理解する</li> <li>08. 患者・児童生徒と支援者自身の心を守る</li> </ol>	
その他の授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の構えの形成促進するために、毎時「めあて」を提示する。</li> <li>・視聴覚教材を用いて、体験的にカウンセリングを理解する。</li> <li>・理論の解説に終わらず、看護や実生活での実践につなげて考えられる機会とする。</li> <li>・話し合い活動や発言行動が強化されるよう、学習環境を調整する。</li> <li>・小テストや小レポートを通して、理解を深める。</li> </ul>	
時間外学修	<p>事前学修：適宜、次回の学習内容について関する小レポートを課す（7h）。  事後学修：適宜、講義内容の要約、コメントをメインとした事後課題を課す（15h）。</p>	
評価方法と評価割合	<p>数回の課題レポートまたは小テスト（70%）と受講態度（発言の積極性、コメント、質問、グループワークへの貢献度等：30%）により行う。</p>	
テキスト	<p>テキストは使用せず、毎回、ハンドアウトを配布する。</p>	
参考書	<p>プロカウンセラーの聞く技術（創元社）</p>	
履修する上で必要な要件		
その他	<p>講義では、体験的な学びにつながる機会を設けます。自らが行動して初めて理解を得られることも多いため、積極的に関わるようにしてみてください。</p>	
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		